

標題 「(農) やない」が「たんぼのいきものしらべ」を実施

(ダイジェスト)

「農事組合法人やない」は、できるだけ環境に負荷をかけない農法での米づくりに取り組んでおり、その一環として生きもの調査等の交流も行っています。

6月10日、地域の子供たちや繋がりのある親子を招いて、冬期湛水・不耕起・無農薬の水田で「たんぼのいきものしらべ」を開催しました。

松江市玉湯町にある農事組合法人やないは、冬期湛水・不耕起・無農薬の「柳井とんぼ米」などを販売しています。農業の有する多面的機能を維持・発揮する取り組みの一環として、柳井地区農村環境向上協議会と共同で、交流の場づくりと水田環境の変化を調べることを目的とした生きもの調査を実施しました。

調査当日は、こども13名を含む約40名の参加があり、たんぼに入って生きものを調べたほか、田植えも体験しました。不耕起水田での田植えは、昨年刈り取った稲株と稲株の間に小さな穴をあけて植え付けるやり方で、子供たちは初めての体験だったようです。

たんぼで捕まえた生き物については、「ミナミアカヒレタビラ研究所」の古林（こばやし）先生から、メダカ、コオイムシ、イトミミズ、マルガタゲンゴロウなど23種類の名前や生態などの説明を受けました。地元の方も、たんぼでは見かけなくなっていたメダカがいたことには驚いた様子でした。昼食は、法人が栽培した黒米・白米のおにぎりや法人の代表が宍道湖で釣った魚を焼いて食べたりして、楽しいひと時を過ごしました。

この法人は、県農業技術センターが開発した株間除草用回転ブラシを取り付けた水田除草機による有機栽培にも取り組んでおり、引き続き連携を図りたいと考えています。



<生き物調査>



<不耕起水田での田植え>